

逍遙館長のところ

「大久保利通・国づくりの精神と11月のところ」

11月10日 逍遙^館

前回は、中国の三国志演義を引き合いに、今月11月は、組織の改革、飛躍、そして継続には何が必要かを考える、またとない月では、とお話ししました。

今日10日は、明治新政府内に内務省が設置され、29日には大久保が初代内務卿に就任、内治優先の、事実上の「大久保政権」が成立したのです。

当時の日本が国の独立を保つためには、「半文明国」から「文明国」側に入るしかない、という国際的現実を、2年前の今月12日に、改米諸国に向け出発した岩倉使節団の一員・大久保らは否応なしに痛感したはずです。

だからこそ、その後のあらゆる分野における急速な近代化政策・西政化政策も、西郷さんにとっては「西政文明と真の文明とは違う」ものとなりました。

歴史は、結果として、変革期の日本に、現実主義に徹した「沈着冷静な決断」と「大胆な改革実行」による「国づくり」を選択させましたが、ここ黎明館で、現代にも通じる、この巨大な二つの思想を同時に体感してみてください。

◎ 次回の予定 「戦略と謀略のあいだ、のところ」

